

主な記事
 2・3面 人事院勧告/第43回全国保育集会
 連合東京2023男女平等セミナー
 コラム カスハラが労災認定の項目に 組合がやるべきことは?
 原水禁世界大会・広島大会
 2023年関東甲地区自治体職員等スポーツ大会(野球大会)
 4面 私のおすすめ(東京ハローワーク非正規職員労働組合 執行委員長 五十嵐 公士)
 エフアジアンの国際協力(1)全2回

自治労東京

千代田区飯田橋3丁目9番3号
 SKプラザ4階
 電話 03-3556-3755
 自治労東京本部発行
 企画 総務局
 責任者 松村 誠治
 編集者 須崎 崇文
 1部10円(但し組合員は組合費を含む)

自治労第97回定期大会

「声を力に、一步前へ」



▲本部新中央執行委員長の石上千博さん(左下) 本部推薦が決定した岸まさき参議(右下)

第6次組織強化・拡大推進計画始動 25参院選「岸まさき」推薦決定

8月28日(30日)にかけて、北海道函館市の函館アリーナにて自治労第97回定期大会が開催された。今大会は、2019年の福岡大会以来、4年ぶりの代議員・傍聴の制限のない大会開催となり、自治労全体で3,400人が集し、活発な議論が交わされた。2024-25運動方針や第6次組織強化・拡大のための推進計画などの提案を議論し、全てが圧倒的多数の承認により可決され、むこう2年の運動方針が確立された。都本部からは新たに石井利明さん(現都本部書記長)が本部中央執行委員に信任された。

冒頭、川本淳中央執行委員長は、今秋の確定闘争にむけた情勢に「言う一果を公務員給与に反映させ、連携して取り組んでいかなければならない」と述べた。そして、今後の自治労運動の強化について触れ、「運動方針のローガンを『声を力に、一步前へ』とさせてほしい。組合員一人一人の声を集める、それを組織の力に変える。日常的な組合活動を展開し、職場の課題を一步前へと進める。そうした組合活動の積み重ねにより、運動を現状よりも前へ進めていくことをめざす。全ての活動の根幹となるのは組織の強化だ。停滞した活動の活性化、組織の強化を図ることが喫緊の課題として、単組・県本部・本部一体となって進めていく」とした。また、現在の政治情勢に触れながら、「自治労組織内参議院議員の『岸まさき』さんを再び自治労の組織内候補として推薦することを提案させていただく。自治体のあり方や政策、公務員の賃金・労働条件、これらすべては政治の場で決まってしまう以上、私たちは政治に無関係ではいられない。現場の最前線で奮闘する組合員の声を国政に届けるためにも何としても再び自治労の代表として『岸まさき』を国政に送り届けなければならない。今大会が2025年参議院選挙闘争にむけたスタートになる。改めて各単組、各県本部にお

いても前回の総括を踏まえながら日常的活動、組織の強化を通じ、政治闘争の意義・共有を進めていただければと思う」と述べた。2024-25運動方針では、①厳しさを増す労働環境において、誰もが安心して働き続けようと思える職場づくりのために、組合員の声を集め、要求に盛り込み、単組活動の強化を図る。②社会セーフティネットとしての公共サービスの充実・強化への財源確保にむけた世論の理解と共感を得る活動。③平和と安心して生活できる社会の実現にむけ不可欠な政治との関わり、意識を高める取り組みの展開を重点課題3点として掲げた。



▲発言する都本部松村委員長

本部の提案する議案に対し、定期大会に結集した44県本部から補強や本部支援を求める発言がされた。都本部は「臨む態度」(第6回単組代表委員会承認)に基づき松村委員長が発言し、①運動方針の実践にむけた具体的な取り組みの明確化、②民間春闘の効果が十分に発揮されていないことを背景とした労働基本権の回復と再任用職員の抜本的な賃金改善、③社会と公務務の変化に応じた給与制度の整備にむけ、国と地方の格差や地域間格差を生じさせない取り組みの強化、④マイナンバーカード業務の現場の混乱と世論を踏まえた対応要請、⑤会計年度任用職員の勤勉手当支給にむけた取り組み強化、⑥労働組合の意義や必要性が再認識される社会にむけた発信の強化と組織強化・拡大推進の実践にむけた情報収集と広く細かな情報提供による本部支援について述べた。



▲退任される庭野修さん ▲本部役員に信任された石井利明さん

また、本大会は2年に一度の基本年大会にあたり、役員の変更が行われた。4期委員長を務めた川本淳さんが退任し、石上千博さん(北海道本部)が新中央執行委員長に就任した。東京都本部からは、新たに石井利明さん(現都本部書記長)が本部中央執行委員として立候補し、信任された。これまで2期本部役員を務められた庭野修さん(東交)については、今大会をもって勇退された。

結び付く「道」なのだろ(江森)

東奔西走
 ▼先日、今年度の「ふるさと納税」に関する新聞記事が目にとまった。2020年度から3年連続で寄付総額が過去最多を更新しているそうである。この制度に関する是非は述べないが東京23区では、いわゆる区民税の「流出」が800億円を超えている。ちなみに港区における約67億円はごみ収集等の環境清掃費の予算とほぼ同額だそうである。▼おそらく寄付をしている一人ひとりは、自分ひとりのために寄付したところで、居住する自治体に影響はないと考えている人が殆どではないだろうか。しかし人数が大きく固まれば、知らず知らずのうちに自治体運営に大きな影響を及ぼす可能性もある。▼視点を変えて、これを労働組合に置き換えてみた。労働者一人ひとりの力は小さいかもしれないし、また、できることも限られている。しかし組織として大きな塊となることで国や自治体を動かす「大きな力」になり得る。組合員一人ひとりの「団結」こそが、そこに結び付く「道」なのだろ

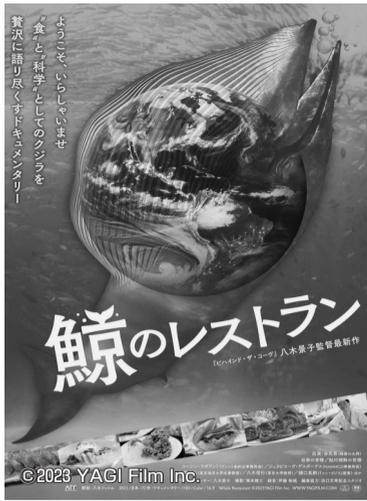




シネマジャーナル
編集者
穂曇 萌

『鯨のレストラン』 「食」としての鯨と「科学」としての鯨を語る

監督：八木景子



●2023年9月2日(土)
新宿K's cinemaにてロードショー
☎03-3352-2471

鯨を巡る世界的な論争を描いた『ピハイノド・ザ・コーヴ』の八木景子監督による8年越しの最新作。1972年、アメリカ主導による「海洋哺乳類保護法」が成立し半世紀以上が経過。外国による圧力で、日本が縄文時代から縁起もこの食材として大切にしていた食文化は全盛期から1%までに落ち込んでいる。そんな中、神田にある「一乃谷」の大将、谷光男は、あえて「くじら料理専門店」を開いている。本作では鯨料理の魅力だけではなく、科学的な見地から「タンパク源」のバランス問題にも向き合う。現代における環境問題を起因としたヴィーガンブームや、森林伐採、持続可能な開発目標(SDGs)等。自然資源のルールを決める国際会議とは無縁の大将と、国際会議の主要人物の証言により、多角的な視点から鯨食について考える事が出来る内容に。消えそうなた鯨食文化、映画を通して多くの方に伝えられたらという思いが込められている。

かつて日本の高度成長期、日本人のタンパク源のトップは鯨だった。牛や豚、鳥よりも鯨が多く食べられていた。鯨は今では輸入に依存しているが、当時は「輸出」までしていた。現在では「鯨専門店」は数軒になってしまったが、「一乃谷」は全国の鯨店からも一目おかれている。大将が東北から上京して東京に「一乃谷」を構えたのは、宮城県・石巻市で東日本大震災が起こる1年前の2010年。石巻市は国内では最大の捕鯨基地である。



『本日のおすすめ』

東京八ローワーク非正規職員労働組合 執行委員長 **いがらし 五十嵐 公士**



●出身県：福島県
●組合歴：
2016年～ 執行委員
2017年～ 副執行委員長
2018年～ 会計
2020年～ 執行委員長

暖簾をくぐりカウンター
のいつもの席へ。右の壁には
は豪快な文字で「本日のお
すすめ」。期待を込めた視
線の先、縦書きのラインナ
ップにはまだ彼の名は見当
たらない。私が心待ちにし
ているその「彼」とは…。

出会いは十年以上遡る。
「イガちゃん、試作メニ
ーがあるんだけど食べ
る？」そう言って大将が供
したのが彼だ。二つ返事で
オーダーすると、今や三枚
に卸された油の乗った彼の
身は肝と醤油のべールを纏

い、遠火であり強火とい
う。あべこべなグリルの中であ
べこべな間に焼き上がる。
グリルから届く香りの手紙
に、直ぐに返す言葉は決ま
った。「大将！冷酒！」我
ながら最高のセレクトだ。
紹介が遅れたが、彼の名
は『秋刀魚の肝醤油焼き』。
人気者が連なる縦書きのな
か、たちまち彼は、右に塩
焼き、左に刺身を従えて、
店の壁のセンターを堂々
と、勝ち取ってしまった。

こうして、いくたびかの
秋を王者として君臨した彼
だったが、庶民の味方であ
る秋刀魚の価格が高騰し、
いつもの活気が蘇る。

庶民の味方から高嶺の花に
なった頃には、おすすめポ
ードを引退し、今では当時
の栄光を知る常連が思い出
るに浸るため、数日だけこ
そり供される裏メニューに
姿を変えた。

そして今年も思いを馳せ
る季節が巡ってきた。さ
て、秋はいつ来るのか。は
たして、彼はセンターに返
り咲くのか。はたまた、
云々。

カウンターではいつもの
顔たちが、今日も予想に花
が咲く。「大将！おかわ
り！」。暖簾の先、やっ
と

エファジャパンの国際協力(1) 全2回

本を読む楽しさを、本が育む豊かな世界を アジアの子どもたちとともに共有しませんか

エファジャパン事務局長 関 尚士



自治労が立ち上げた国際
協力団体があることをご存
じですか？認定NPO法人
エファジャパンです。設立
は今年から19年前の2004
年10月12日。来年で20年目
の節目を迎えます。エファ
の前身となる取り組み、そ
の始まりは自治労が結成40

周年を迎えた1994年に
さかのぼります。
「自分たちもその一員で
あるアジアの人々と交流し
相互理解を深めていくこ
と」

アジアの子どもたちを
とり巻く問題の解決にむけ
て、資金提供やパソコン援
助にとどまらない継続的な
支えを一般組合員とともに
推し進めていくこと。

これまでの「先進国に学
ぶ」視察型の取り組みか
ら、「アジアと連携し、と
もに支えあう」国際貢献活
動型へと転換し、組合員参
加型の新たな自治労運動が
ここから始まりました。

インドシナ戦争による被
害が最も深刻だったベトナム、
ラオス、カンボジア。
その三国で「アジア子ども
の家」プロジェクトが立ち
上げられて以降、8年の間
に延べ1,200人を超える
自治労組合員が現地へと
赴きました。県本部等の主
催ツアーに参加し、交流を
深め、あるいは図書館司書
や保育士、児童相談員、農
業専門家として研修を担っ
た組合員の人々です。

「ラオス・ピエンチャン
都公共図書館・多目的ホー
ル建設」支援を覚えておら
れる方もいらっしゃると思
います。一国の首都の公共
図書館を整備するという一
大事業。これを中心となっ
て推進した組合の一つが
「自治労東京」でした。単
組から多くの人たちが現地
を訪問し、建設作業や書架
づくり、蔵書の整備に汗を
流し、はたまた国内で絵本
を届ける運動を展開するな
ど、数えきれないほどの組
合員がこの取り組みに携わ
りました。

語りかけることで、手を
携えることで生まれた「あ
りがとう」の言葉。職場や
学校、家庭以外の社会にか
かわることで気づかされた
「自身の存在・豊かさの意
味」。1994年に始まっ
た新たな自治労運動は、国
際貢献活動であったと同時
に、関わった組合員一人ひ
とりが新たな人生の価値感
を発見する運動であったよ
うにも思います。

自治労からエファにバト
ンが託されて19年。自治労
組合員の皆さんお一人おひ
とりとともに、ともに歩
み、学び、成長していける
豊かな社会をめざし、新た
な一歩を踏み出してまいり
ます。(次号につづく)



▲QR エファジャパン紹介動画(左)
▲QR エファパートナー特設サイト(右)

自治労東京都本部ホームページリニューアルしました！



- 各種取り組みの発信
- スマホ対応
- 機関紙「自治労東京」電子版の掲載*
- 組合員むけ資料の掲載*

※組合員専用ページからアクセス可能です。
パスワード「tohonbu」

QRコードからアクセス！
QRコードを読み込めない場合は「https://jichirotokyo.jp/」までアクセスしてください。

